

# HOP STEP JUMP

## 7月のことば

### 「願う」

今年の「七夕」はどんなことを願いましたか？



昨日、7月7日は七夕。釜利谷中学校の1年生も短冊に願い事を書き、折り紙で作った飾りをつけた笹の葉を1階のホールに設置しました。「サッカーの大会で点を入れられますように」「友達とディズニーランドに行けますように」「テニスが上手になりますように」など、いろいろな願い事が書かれていて、微笑ましい限りです。

★ ★ ★

七夕は、1年に1回、織姫と彦星が天の川を渡って会うことができる日です。この二人が7月7日の「年に1回」しか会えないことにも、ちゃんと理由があります。

織姫とは、秋の豊作を願う際に神様が着る着物を織る女性のこと。天の神様は、一生懸命に機織りをしていた織姫と、牛の世話をよくする牛飼いの彦星を結婚させました。しかし、二人は二人で過ごすことが楽しくて、仕事もせずに遊ぶようになってしまいます。そこで怒った神様は、間に天の川を挟むことで二人を引き離してしまっただけです。そんな織姫と彦星ですが、哀れに思った神様が、七夕の日にだけ二人が会えるように計らってくれました。これが、二人が「年に1回」だけ会える理由です。そうして二人は、七夕の日のために、日々真面目に仕事をするようになりました。

では、なぜ七夕に願い事をするのでしょうか。これには「乞巧奠（きこうでん）」という中国の風習が関係しています。「乞巧」とは、「技巧を授かるように願う」「上達を願う」という意味です。つまり、乞巧奠とは織姫にあやかり、機織りや裁縫の上達を願う儀式を指します。この儀式が、現在の七夕の「願い事をする風習」につながっていると考えられています。（笹飾りで使われるあみ飾りやひし形つなぎは、この儀式で使われた布製の飾りが元になっているのだとか。）

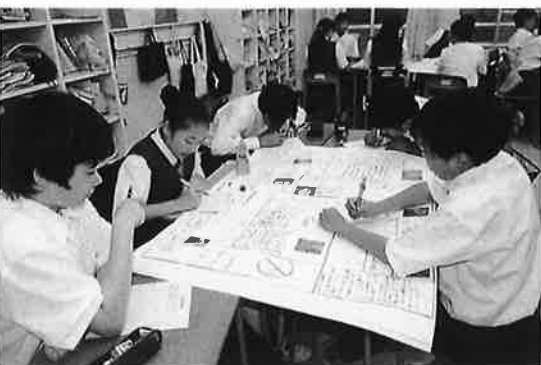
さて、願い事を書いてつるしてはいるものの、誰が願い事をかなえてくれるのか考えたことはありますか。七夕の願い事は、いったい誰に向けたものなのでしょう。先ほど述べたとおり、中国の風習だった「乞巧奠」は、織姫にあやかり、自身の機織りや裁縫の上達を願うものでした。つまり、お願い先は織姫なのです。

★ ★ ★

願い事というと「〇〇できるようになりますように」のような形式で書くことが多いですが、七夕の願い事には、もともとと新年の抱負のような、自分に誓いを立てるようなニュアンスがあったと言われます。そのため、努力をするのはあくまでも自分。織姫にお願いをしてあやかりつつも、それを実現できるかどうかは自分次第なのです。願い事、というよりは、自分自身を奮起させるきっかけと捉えるのが正しいかもしれません。

# 6月の学校風景①

## ～校外学習事後学習発表会より～



## 6月の学校風景②

### ～校外学習事後学習新聞～



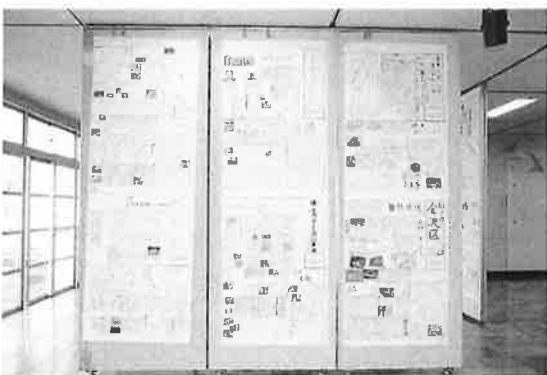
【1組】



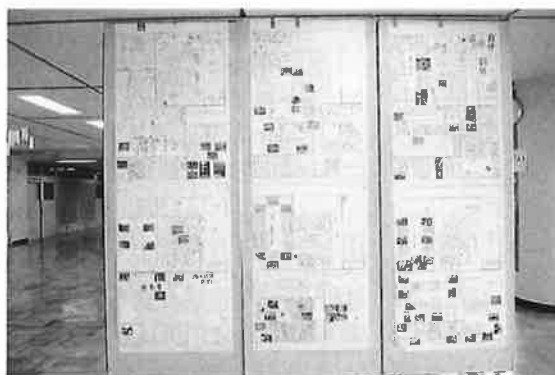
【2組】



【3組】



【4組】



#### 【保護者の皆様へ】

1階のホール（図書室前）に全クラスの校外学習「班新聞」を掲示しております。11日（木）から始まる個人面談で来校の際には、ぜひご覧ください。また、生徒投票による優秀作品を選出しております。保護者の皆様にも投票のご協力をお願いします。（詳細は、面談時に担任よりお話をさせていただきます。）

# 7月の学校風景 ～七夕飾り～



## 7月の予定

- 1日(月) 朝会
- 3日(水) 生徒委員会
- 11日(木) 個人面談①
- 12日(金) 個人面談②
- 16日(火) 個人面談③
- 17日(水) 個人面談④
- 19日(金) 終業式、部活動再登校 14:00～

